

いぶし

室蘭 満天並火

満点(天)の笑顔

「地元の仲間と白球を追った。
背番号「11」の宝物。」

第一回

新時代を担う
満天ルーキー

馬場 雄飛 さん



室蘭からの甲子園は 甲子園に近いのは、
夢のまた夢だった。 隣まちの強豪だったの
エースを目指した最 かもしれない。実際に
後の夏は、背番号「11」 友だちは札幌を選んで
だった。 甲子園の土を踏んだ。

それでも僕が室蘭の
高校を選んだのは、監
督が言った「地元勢で
甲子園に行こう」の思
いにひかれたから。3
年間教わった礼儀やあ
いさつの大切さは絶対
に忘れない。

春からはこのまちの
製鉄所で働く。白球を
追った仲間はまちを離
れる人もいる。地元の
仲間と土まみれになっ
た日々は一生の宝物。

ここで育った僕たち
のプレーボールはこれ
から。

さあ、ドーンといこ
うよ。

●今回の登場人物

馬場雄飛さん(18)
室蘭市本輪西町

【取材】
室蘭民報社/野田篤志